

西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は100%)、生徒92%(R6は90%)、保護者58%(R6は69%)、地域100%(R6は79%)とであった。校長の掲げる教育方針を意識して教職員は教育活動を行ってきた。そのため、生徒及び地域の肯定的評価の値が高まってきた。保護者の理解浸透が課題である。</p>
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員や生徒の努力、特に学校教育目標に関連付けて努力している事実についての広報活動を引き続き充実させる。 ・行事や学校公開などのタイミングを活用し、保護者や地域への幅広い周知を引き続き行っていく。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、学校教育目標や教育方針をホームページや回覧等で発信している。 ・地域も学校が発信している学校便り等を回覧版等を通じて目にすることができている。 ・保護者が課題である。生徒が保護者に伝えられると良い。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>	

西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は100%)、生徒89%(R6は91%)、保護者85%(R6は82%)、地域 80%(R5は63%)であった。(ただし、地域については、肯定的評価以外は「わからない」と回答)また、ほとんどの生徒が肯定的評価である中で、そう思えない生徒がいることについてははていねいに分析し対応していく必要がある。</p>
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■系列1 ■系列2 ■系列3 ■系列4 ■系列5</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1人1人の生徒を“かまう”ことを大切にしていく。また、「せらぷらす」や「アンケート」などの調査も活用し、生徒理解に基づく学級経営を行っていく。 ・細やかな保護者対応を行っていく。 ・引き続き、学校生活の様子等を学校ホームページなども活用し、家庭や地域に発信していく。
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね良いと評価できる。 ・保護者は、授業参観以外は子供からの情報による評価となるため、一部分的な評価になっていると考えられる。 ・地域も学級を毎日見ているわけではないが、一定の評価をしている。
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

西 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は85%)、生徒85%(R6は90%)、保護者89%(R6は85%)、地域70%(R6は63%)とであった。(ただし、地域については、肯定的評価以外は「わからない」と回答。)授業では生徒が意見を交流し合う場面等を多く取り入れている。生徒の主体的な学びが課題である。</p>
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な研究授業を行うなど、絶えず授業改善に努める。 ・学び合い学習、特別活動等を通し、主体的に学習等に取り組む態度を育成する。 ・“振り返り”を行うことを大切にしていく。 ・定期的に生徒主体の学級会を行う。
	保護者①	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で良い授業(学習指導)をしていると捉えている。 ・地域も授業を毎日見ているわけではないが、一定の評価をしている。
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

西	中学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
学習指導	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>40%</td></tr> <tr><td>②</td><td>53%</td></tr> <tr><td>③</td><td>7%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	40%	②	53%	③	7%	④	0%	⑤	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員83%(R6は85%)、生徒84%(R6は91%)、保護者85%(R6は79%)、地域50%(R6は84%)であった。 ICT機器の活用が常態化している授業がある一方で、ICT機器を使用しているか効果的に活用しきれていない面があることが課題である。</p>
	評価結果	割合														
	①	40%														
	②	53%														
③	7%															
④	0%															
⑤	0%															
生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>33%</td></tr> <tr><td>②</td><td>51%</td></tr> <tr><td>③</td><td>13%</td></tr> <tr><td>④</td><td>2%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>1%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	33%	②	51%	③	13%	④	2%	⑤	1%	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的に活用できるよう研修と修養を重ねていく。 	
評価結果	割合															
①	33%															
②	51%															
③	13%															
④	2%															
⑤	1%															
保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>33%</td></tr> <tr><td>②</td><td>52%</td></tr> <tr><td>③</td><td>4%</td></tr> <tr><td>④</td><td>1%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>10%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	33%	②	52%	③	4%	④	1%	⑤	10%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利活用は間違いなく必要なものなので、引き続き効果的に活用できるとよい。 ・教員のデータの活用について適切に行う必要がある。 ・地域住民は、ICTの中身がわからないため回答することが難しい。 	
評価結果	割合															
①	33%															
②	52%															
③	4%															
④	1%															
⑤	10%															
地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>30%</td></tr> <tr><td>②</td><td>20%</td></tr> <tr><td>③</td><td>10%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>40%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	30%	②	20%	③	10%	④	0%	⑤	40%		
評価結果	割合															
①	30%															
②	20%															
③	10%															
④	0%															
⑤	40%															

西	中学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は92%)、生徒79%(R6は87%)、保護者84%(R6は87%)、地域80%(R6は64%)であった。生徒にとって体力向上を図る機会が減っていると考えられることが課題である。</p>
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。		<p>課題解決への方策</p> <p>体力向上を図る機会をつくり、主体的に運動する素養を育成する。</p>
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・体育祭の様子からも体育的行事が充実していることが伺える。 ・文化的な活動をしている生徒、保護者は控え目な回答になっていると考えられる。</p>
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。		

西 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
生徒指導	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>67%</td></tr> <tr><td>②</td><td>33%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	67%	②	33%	③	0%	④	0%	⑤	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は100%)、生徒74%(R6は76%)、保護者71%(R6は68%)、地域40%(R6は37%)であった。(ただし、地域については、肯定的評価以外は「わからない」と回答。) 教職員は、家庭と連携・協力を努めている一方、保護者はそう感じていない面もあることが課題である。</p>
	評価項目	割合														
	①	67%														
	②	33%														
③	0%															
④	0%															
⑤	0%															
生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>44%</td></tr> <tr><td>②</td><td>36%</td></tr> <tr><td>③</td><td>12%</td></tr> <tr><td>④</td><td>2%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>6%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	44%	②	36%	③	12%	④	2%	⑤	6%	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめやトラブルを早期発見し、組織的かつ早急に対応していく。 ・引き続き、保護者と密に連絡をとり、連携していく。 	
評価項目	割合															
①	44%															
②	36%															
③	12%															
④	2%															
⑤	6%															
保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>20%</td></tr> <tr><td>②</td><td>51%</td></tr> <tr><td>③</td><td>13%</td></tr> <tr><td>④</td><td>2%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>13%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	20%	②	51%	③	13%	④	2%	⑤	13%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者の回答に相関がある家庭は、家族関係が良好であると考えられる。 ・相談相手について、誰にも相談できないことがあると問題である。「そう感じていない」と回答した数名の生徒を念頭に学校は対応してほしい。 	
評価項目	割合															
①	20%															
②	51%															
③	13%															
④	2%															
⑤	13%															
地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>30%</td></tr> <tr><td>②</td><td>10%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>60%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	30%	②	10%	③	0%	④	60%	⑤	0%		
評価項目	割合															
①	30%															
②	10%															
③	0%															
④	60%															
⑤	0%															

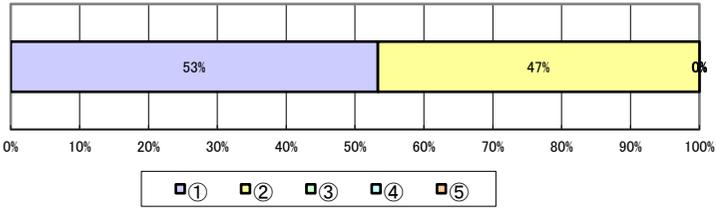
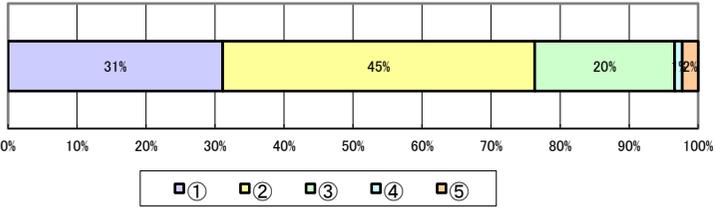
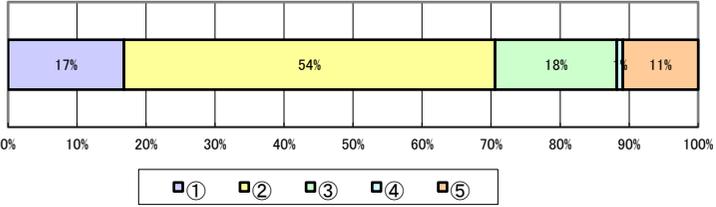
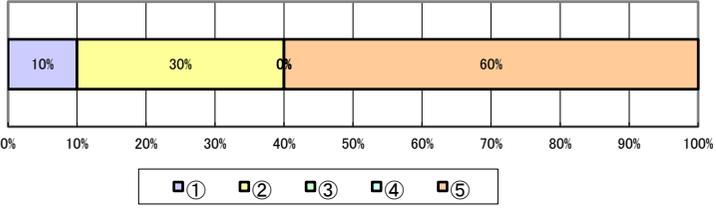
西 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は84%)、生徒93%(R6は93%)、保護者76%(R6は72%)、地域50%(R6は53%)となった。(ただし、地域については、肯定的評価以外は「わからない」と回答。) 教職員は、生徒理解に努めている一方、保護者はそう感じていない面もあることが課題である。</p>
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教職員は生徒を徹底的に“かまい”、生徒の良さを認め、伝えていく。 ・学校は家庭、地域とともに、思春期にある中学生の健全育成に努めていけるよう研究していく。
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から学校の中での様子は見えないが、学校が一生懸命対応していることは見えている。 ・「そう思わない」と回答した数名の生徒を念頭に置いておく必要がある。 ・「せらぶらす」や「メンタルヘルスリテラシー教育」に取り組んでいることを引き続き保護者に発信していくとよい。 ・保護者の理解が高まると良い。
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		

西 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	 <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は77%)、生徒76%(R6は77%)、保護者71%(R6は62%)、地域40%(R6は48%)であった。(ただし、地域については、肯定的評価以外は「わからない」と回答。) 研修等を通じた教職員の意識向上の結果、教職員は特別支援教育の視点を持って日々教育活動にあたっている。個に応じた指導のさらなる向上が課題である。</p>
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	 <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、スクールカウンセラーや特別支援教育の専門家の助言を得て、教職員の研修と修養を重ねていく。 ・メンタルヘルスリテラシー教育(SOSの出し方教育)を推進し、生徒の「困った時に相談できる力」を高めていく。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	 <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・学校の“特性”への理解は進んでいる。“特性”についての困り事へのさらなる理解が必要である。そのために行政との一層の連携が必要である。</p>
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	 <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

西
中学校
評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>対象ごとの肯定的評価(①+②)の割合は、教職員100%(R6は92%)、保護者64%(R6は62%)、地域60%(R6は84%)であった。教職員の地域とともにある学校の意識が高まっている。広く家庭に学校運営協議会や学校応援団を周知していくことが課題である。</p>
	生徒	/		<p>課題解決への方策</p> <p>・学校運営協議会や学校応援団の活動等について、広報する機会をつくっていく。</p>
	保護者	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・肯定的な結果であると受け止めている。 ・ボランティア活動等で生徒が地域の中で活動をしてきている。互いに助け合っていると感じている。鶴ヶ島中と再編後も同じように関わりあってほしい。</p>
	地域	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		

西

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察								
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<table border="1"> <caption>評価結果の割合</caption> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>47%</td></tr> <tr><td>②</td><td>47%</td></tr> <tr><td>③</td><td>7%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	47%	②	47%	③	7%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員による肯定的評価(①+②)の割合は94%(R6は92%)であった。継続して働き方改革を続けている。「カエル会議」などで、引き続きできることから少しずつ具現化していく。</p>
	評価項目	割合										
	①	47%										
	②	47%										
③	7%											
生徒			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の目的は業務の効率化による教育の維持・向上にあることを意識し、授業改善、指導改善を推進していく。 ・家庭の協力、地域の協力を仰ぎながら、地域全体で子どもを育成していきたい。 									
保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校及び教職員は努力して教育活動を行っている。 ・勤務時間である8時20分から16時50分の中で働けるよう、思い切った改革を行う必要がある。 									
地域												